

これまでの総合教育会議での協議を踏まえた施策等について

令和4年度第1回総合教育会議

英語教育の推進

2025年大阪・関西万博やインバウンドの回復により、大阪の一層のグローバル化が見込まれる中、大阪のすべての子どもたちが世界とつながるためのツールとして、生きた英語力、特に英語で話す力を実践する機会を通じて身につける。

<めざす姿>

子どもたちが世界に興味・関心を持ち、世界の人々とコミュニケーションをとることができる能力（生きた英語、特に「話す力」）を身につける。

<施策等の進め方>

子どもたちが実際に英語に触れ、話すという実践を行う機会を授業のみならず様々な場面で提供する。

- ▶一人ひとりの学習状況に応じた実践的な英語教育を推進。
- ▶英語力を学年を問わず伸ばすため、ICTを活用した個別最適な英語学習を推進。
- ▶ネイティブスピーカーの活用等により、指導体制を充実。

<基本方針及び重点取組>

基本方針1 確かな学力の定着と学びの深化
重点取組③ | グローバル社会を見据えた英語教育・ICT活用の推進

支援学校の不足教室解消等

知的障がいのある児童生徒の増加に伴う支援学校の教室不足を10年間の計画期間内に解消するとともに、国が定めた「特別支援学校設置基準」に適合するための支援学校の整備を行う。

<めざす姿>

将来にわたる在籍者数等を踏まえ、子どもたちの障がいの状況に応じた、計画的な支援学校整備を進め、子どもたち一人ひとりにとって適切な教育環境を整える。

<施策等の進め方>

在校生数の増加が見込まれる地域を中心に、教育環境を改善するため、新校設置をはじめとする学校整備を進める。

- ▶閉校となった府立高校の活用や府立高校との併設。
- ▶既存の教室改修等による対応。

※この他、設置基準への適合や教室不足の解消に必要な効果的な対応を検討中

<基本方針及び重点取組>

基本方針6 学びを支える環境整備
重点取組⑳ | 施設等の計画的な整備の推進

令和4年度第2回総合教育会議 令和3年度第1回総合教育会議

生徒支援・指導体制の強化

SSWの増員等により、専門家や福祉機関等と連携を一層進め、ヤングケアラーへの支援をはじめ、子どもたちへの支援体制を強化する。
また、部活動指導員等に、多様な人材を積極的に活用することにより、専門性の高い指導や教職員の働き方改革をより一層推進する。

<めざす姿>

大学、地域、企業、行政等の多様な機関と連携・協働し、子どもたちへの専門性の高い指導の実現をはじめとする教育内容の充実や、子どもたちへの支援体制を強化。

<施策等の進め方>

多様な人材の活用場面をさらに拡充。

- ◆これまでの多様な人材の主な活用状況
 - ・ヤングケアラーの支援 →SC、SSW
 - ・部活動での指導 →元教員等
 - ・不登校の子どもたちの支援 →SC

◆これからの多様な人材の活用例

- ・多様な教育実践校における専門人材の充実
- ・部活動指導員への大学生の登用
- ・大学、地域、企業等と連携した教育活動

<基本方針及び重点取組>

基本方針4 多様な主体との協働
重点取組⑭ | 地域・大学・企業等との連携や多様な人材との連携